

#### 4 . 成果移転活動報告及び今後の予定

本事業では、企業による研究成果の的確な実用化・製品化のため、新技術エージェントが中心となって市場調査を行い、その結果を研究目標及び内容に反映させてきた。

本事業における新技術エージェントの主な活動経過及び結果は次のとおりである。

##### フェーズ

###### 〔当初計画における問題点〕

研究テーマが大学における基礎研究をシーズにしたものであり、具体的な実用化目標が明確でなかった。

###### 〔エージェント活動の狙い〕

このような状況を踏まえフェーズ におけるエージェント活動の狙いを次のようにした。

- ）実用化目標の設定、ターゲットの具体化をする。
- ）実用化研究は多くのマンパワーが必要なため、テーマの絞り込み、重点化をする。
- ）共同研究に参画している産官学の役割分担を明確にする。

###### 〔エージェント活動の経緯〕

実用化目標の具体化、テーマの重点化を推進する手段として、

- ）機能モデルの試作
- ）特性、信頼性、コスト等、市場に提示できるデータの取得
- ）上記をもとにした市場調査の実施

以上三点を各研究グループに義務付けた。

###### 〔市場調査の基本方針〕

- ）目標の明確化・・・何を実用化するのか具体的目標を確定する。
- ）デモ用の機能モデル試作・・・市場調査時にデモ可能なモデルを準備する。
- ）データの提示・・・基礎的性能データ、信頼性データ、コストデータの概略
- ）これを持って個別的に市場調査（訪問調査）を実施し、結果を研究グループにフィードバックする。

##### フェーズ

###### 〔市場調査の結果概要〕

全体として、新規性のある画期的な技術開発だという評価が多かったが、

- ）試作品の性能レベルでは市場が小さい・・・性能アップが必要
- ）性能、信頼性に関するデータ不足・・・とくに信頼性

を指摘された。市場を勝ち取るには、更なる性能アップが必要であった。

さらに本調査では、製造企業、ユーザー企業、販売会社、ユーザーなど多数の企業を訪

問したが、共同研究参加やライセンス申込みに関心を示した企業は見いだせなかった。

このことは、提示したモデルが未完成であるという市場からのメッセージを意味し、更なる改良が必要であると考えられる。

〔調査結果による個別研究テーマに残された課題〕

【（高分子／液晶）複合膜】

- ）大画面表示膜
  - ・コントラストの改良、プリント印字並のディスプレイ
  - ・低価格化（同じ面積比較でLEDの3分の1）
- ）間仕切りシャッター膜としての応用
  - ・大幅なコストダウン

【光機能性ガラス材料】

- ）赤色蓄光・蛍光材料
  - ・輝度の大幅な向上

【集積型可変波長色素レーザー装置】

- ・出力のパワーアップ（10 mW出せれば需要の50%をカバーでき、事業化の見通しがはっきりする。）

【ナノステージ】

- ・粗動と微動が兼用できる特徴を生かして、ナノステージとマイクロステージを兼用した小型ステージを開発すると将来の市場が取れる可能性あり
- ・信頼性の確立

以上のような結果をフェーズの研究に反映させ、参加企業、あるいは新たな企業への成果移転により、今後の実用化・製品化を目指していく。